

氏 名	識 名	敦
学 位 の 種 類	博 士 (医学)	
学 位 記 番 号	第 4 8 9 号	
認 定 課 程 名	防衛医科大学校医学教育部医学研究科	
学位授与年月日	平成27年2月13日	
論 文 題 目	StageIII 大腸癌における（癌）幹細胞マーカー発現と化学療法感受性に関する研究	
審査担当専門委員	(主査) 杏 林 大 学 教 授 正 木 忠 彦	
	信 州 大 学 教 授 中 山 淳	
	大学評価・学位授与機構 教 授 中 原 一 彦	

審 査 の 結 果 の 要 旨

Stage III 大腸癌の術後化学療法に対する治療効果を予測する因子は確立されていない。近年、癌幹細胞は化学療法に抵抗性を示すことが報告されていることから、申請者は Stage III 大腸癌の原発巣および転移巣における（癌）幹細胞マーカー発現の化学療法感受性予測因子としての意義を明らかにすることを目的として本研究を行なった。

その結果、癌幹細胞マーカーCD133 高発現症例では術後補助化学療法に抵抗性を示し、CD133 低発現症例では術後補助化学療法により予後改善効果を認めた。また幹細胞マーカーOct4, Sox2, c-myc 発現と術後補助化学療法の治療効果の関連を検討し、Oct4 低発現症例および c-myc 高発現症例における術後補助化学療法の有用性を示した。

次に、大腸癌術後再発切除巣におけるこれらのマーカーと術後補助化学療法の治療効果の検討では、原発巣と同様に、CD133 低発現症例, Oct4 低発現症例および c-myc 高発現症例における術後補助化学療法の有用性を示した。

以上のように、本研究は大腸癌における（癌）幹細胞マーカー発現と化学療法の感受性に関する詳細な検討により、大腸癌に対する個別化治療を行う上で CD133, Oct4 および c-myc 発現の有無が有用である可能性を示しており、今後の大腸癌治療成績の向上に寄与することが期待できる。よって、本論文の学術的価値は高く博士（医学）として合格と判断した。